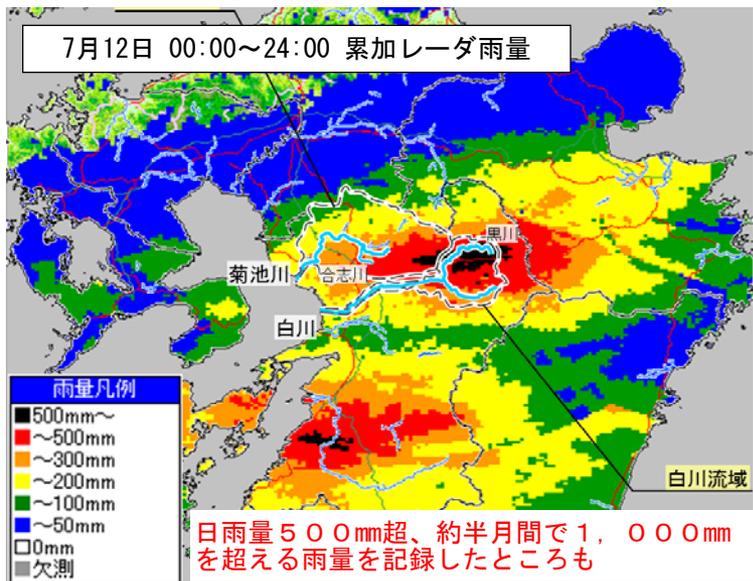


◆平成24年 九州北部豪雨災害での活動①



■ 各整備局・本省等から緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)および災害対策用機械が支援のため九州に集結



- 平成24年7月3日及び7月11日から14日にかけて、九州各地で観測史上最多を記録する大雨となった。福岡、熊本、大分県を中心に、広範囲で甚大な被害が発生。
- 7月3日の豪雨では、筑後川水系花月川などで堤防が決壊。(九州の直轄管理区間では、22年ぶりとなる堤防の決壊)
- 7月12日には、気象庁が「これまで経験したことのないような大雨になっている」と最大級の警戒を呼び掛けるほどの記録的豪雨。熊本県を中心に土砂災害、河川の氾濫、道路通行止め等が発生。
- 7月14日には、矢部川水系矢部川(国管理)と沖端川(県管理)で堤防が決壊。柳川市・みやま市の市街部を中心に広範囲で浸水被害が発生(約1800戸が浸水)
- 人的被害: 死者31名、行方不明者3名、重軽傷者32名
- 住家等被害: 合計17,074棟(家屋の損壊、浸水被害等)
- 被害総額: 約1,925億円(土木施設、農業、漁業、商工・観光などの被害全体額)

■ TEC-FORCE、災害対策用機械の出動状況

班名	他地整・本省	九州	合計
TEC-FORCE	71名	117名	188名
TEC-FORCE(高度技術)等	25名	9名	34名
排水ポンプ車	21台	35台	56台
照明車	21台	18台	39台
待機支援車	1台	3台	4台
清掃車・散水車等	0台	10台	10台
災害対策本部車	0台	1台	1台
防災ヘリ	4機	1機	5機



TEC-FORCE 222名(延べ781人・日)派遣

◆平成24年 九州北部豪雨災害での活動②

■ 被災当日の7月3日～8月10日までの間 TEC-FORCE 222名(延べ781人・日)を派遣
要請を受けた自治体及び直轄の被災箇所で、被災状況の調査・分析、復旧に向けた技術支援・排水作業等を実施



自衛隊・消防等と協議を行い、排水作業を実施（熊本県阿蘇市）



被災状況調査を実施（大分県竹田市）



矢部川堤防決壊箇所での調査状況（柳川市）

大規模土砂災害や河川堤防決壊など、特に被害が大きかった箇所には、国土交通本省・国土技術政策総合研究所・(独)土木研究所等の専門家からなる「**TEC-FORCE高度技術調査班**」が派遣され、迅速な復旧や復旧工法・搜索活動の助言等を行った。

◆平成24年 九州北部豪雨災害での活動③



■ 被災当日の7月3日～7月27日までの間、福岡・熊本・大分の3県と、その18市町村に整備局職員を現地情報連絡班(リエゾン)として派遣

■ 県・市町村への九州地整リエゾン派遣状況

3県 …延べ102人日
18市町村…延べ305人日 } **計延べ407人・日派遣**

■ リエゾンの活動内容

- ①自治体が必要とする情報を整備局から迅速に入手し、提供。
- ②自治体からのリクエストをいち早く整備局に伝達し、対応。
- ③TEC-FORCE・災害対策用機械等を調整し、派遣。

※リエゾン【liaison】とは、フランス語で「組織間の連絡、連携」という意味。災害時等において整備局職員を県・市町村へ派遣し相互の連絡調整を行う役目を担う。



自治体防災会議への参加

阿蘇市リエゾン



災対用ヘリ「はるかぜ」からの映像を市防災会議で共有

日田市リエゾン



災対用ヘリ「はるかぜ」からの映像を見ながら被災状況確認(朝倉市長への説明)

朝倉市リエゾン

◆平成24年 九州北部豪雨災害での活動④



■自治体の要請を受け、画像送信機器(衛星通信車)・排水ポンプ車等を派遣



沖端川破堤箇所対岸に衛星通信車を配置し災害対策本部にライブ映像を配信(福岡県柳川市)



大型土のう支援状況(福岡県) 支援物資での仮締め切り状況



排水ポンプ車と照明車を出動させ湛水排除(福岡県柳川市)

■福岡県の要請により、整備局が保有する**応急組立橋**を貸与(10月3日に通行止め解除)



須崎橋



須崎橋の車道(写真奥の石橋)が崩落



10月3日0時 通行止め解除

応急組立橋供用後の状況

7月14日の豪雨により、八女市黒木町の国道442号(県管理)の須崎橋が被災し、全面通行止めとなった。